

米英空軍ノ獨本國爆撃ハ依然熾烈ニシテ、「カッセル」、「ハーゲン」、「ビールフェルト」、「ゲルゼンキルヘン」、「ウルム」、「インゴルシュタット」、「ロイトリンゲン」、「マンハイム」、「アルドウイヒスハーフェン」、「シュットガルト」、「ウイナノイシュタット」、「リンツ」、「クラーツ」等西獨及南獨ヲ主トシ「ドレスデン」、「ケムニッツ」、「マクデブルク」、「ライプツヒ」等中獨諸都市ニ對シテモ大舉出撃シ居レリ。伯林ニ對シテハ「モスキート」機ノ夜間攪亂攻撃執拗ニ續行セラル（五日夜迄二十四夜連續）。

四、佛 蘭 西

(一)「ビドー」外相ノ訪英
「ビドー」外相ハ英國政府ノ招待ヲ受ケ、二月二十五日、訪英セル處、右ハ「ド・ゴール」、「ローズウェルト」トノ會見拒否（第一八一頁參照）直後ノコトヲ注意ヲ惹キタリ。今次會議ニ於テハ、(イ)「ヤルタ」會議ニ關スル詳細ナル報告、(ロ)佛國軍ノ獨逸占領地域、(ハ)英國ヨリノ對佛物資供給、(ニ)「レバノン」問題、(ホ)英佛同盟等ノ問題取上グラレタルモノト觀測セラレ居ルモ、其ノ成果ニ關シテハ、二十七日、單ニ「ビドー」ハ、二月二十五日乃至二十七日間ノ倫敦滞在中、一切ノ佛英兩國關係事項ニ付「チャーチル」ト意見交換ヲ行ヒタルガ、「ヤルタ」會議ノ内容ニ關シテモ英側ヨリ報告ヲ受ケ、又佛國ニ對スル食料補給ノ問題ヲモ論ジタリ。今次會議ハ、兩國間ノ傳統的友好關係ニ基キ忌憚無キ意見交換ヲ行ヒタルヲ以テ、兩國間ノ戰時並ニ戰後ニ於ケル協力意圖確認ニ資スル處アリタリ。」トノ要旨ノ正式「コミニケ」ノ發表アリタルノミナリ。

(二) 佛伊間直接關係設定

「ド・ゴール」政權ト「ボノミ」政權トノ間ニ直接外交關係設定セラレタル旨、二月二十八日發表セラレ、(イ)「ド・ゴール」側ハ伊太利問題諮問委員會佛代表「クローグ・ド・ムルヴィル」ヲ、「ボノミ」側ハ「カルロ・スフォルツァ」伯ヲ、夫々駐伊及駐佛代表（大使ノ資格ヲ附ス）トシテ任命セリト傳ヘラル。右ハ兩政權間ノ外交關係設定ニアラズシテ、單ナル事實上ノ關係設定ニ止マル模様ナリ。尙「ド・ゴール」側ハ「バレルモ」及「バリ」ニ、「ボノミ」側ハ「バリ」及「マルセーユ」ニ、夫々領事代理ヲ駐在セシムルニ決定セル旨傳ヘラル。
又「ボノミ」政權ハ、一八九六年九月二十八日「チニス」ニ於ケル伊太利人ノ特權ニ關スル伊佛間條約ノ無効ヲ承認セル趣ナリ。

五、南 伊 太 利

休戰條項改訂

二月二十五日「ボノミ」政權公表ニ依レバ、在伊聯合國監督委員會議長「マックミラン」公使ハ、二十四日、「ボノミ」首相ヲ往訪、對伊休戰條項改訂ニ關シ要旨左ノ如キ覺書ヲ手交セリ。
(イ) 聯合國ハ爾後伊側政府ノ外交代表任命ニ關與セズ、他方聯合國及中立國政府モ右委員會ノ同意ヲ求ムルコトナク自由ニ駐伊大公使ヲ任命スルコトヲ得。
(ロ) 聯合國側ハ爾後伊側政府ノ法律命令ノ制度ニ關シ監督ヲ行ハズ、又其ノ事前ノ承認モ必要トセズ。

(ハ) 伊政府ハ専ラ軍事的性質ヲ有スルモノヲ除キ自由ニ官吏ヲ任命スルコトヲ得。
(ニ) 停戦ノ待遇ヲ改善シ近ク其ノ釋放ヲモ行フ。

(ホ) 伊ノ對外交關係ノ振興ニ付措置ヲ講ス。

(ヘ) 本改訂條項ハ即時施行セラル。

右覺書ハ、「ボノミ」首相ガ「クリミヤ」會談ニ提出セル覺書ニ基キ、同會談ニ於テ協議決定セラレタルモノナリト傳ヘラル。尙休戰條項中經濟及財政條項ノ改訂ニ關シテハ目下交渉中ノ由ナリ。

六、羅馬尼亞

(一)「ラデスク」内閣總辭職

左翼急進派ノ結成スル國民民主主義戰線ハ、舊體成立セル「ラデスク」内閣(第二卷第六一五頁參照)ニ對シテモ、依然對蘇休戰協定履行ノ怠慢及其ノ反動的の性格等ヲ非難シ、蘇聯ノ「ラデスク」内閣攻撃宣傳(第二〇二頁參照)ト相俟テ、國內政情ハ益々紛糾ヲ増シ、國民民主主義戰線ノ反政府「デモ」及左右兩派ノ衝突等頻々ニ報ゼテ居リタルガ、二月十二日、「ラデスク」首相ガ(イ)政府ノ對獨戰完遂、休戰條項ノ實行及治安ノ維持ノ三大政策ノ實行ニハ種々困難アルモ、之ガ爲ニ現政府ノ誠意ヲ疑ヒ當局者ヲ「ファッシ」ナリト非難スルコトハ不當ナルコト、(ロ)言論ノ自由ハ認メラルベキモ不當ナル人身攻撃ハ許サルベカラザルコト、(ハ)新労働組合法ノ公布ヲ見タルモ、組合ハ嚴ニ社會目的ヲ追及スベク、政治ニ關與スベカラザルコト、(ニ)農業改革ハ其ノ時機ニ非ルコトヲ強調セル聲明ヲ發セルガ、右聲明ヲ契機トシテ政情ハ急激ニ惡化シ、二月二十四日、國內各所ニ於テ國民民主主義戰線ノ反「ファッシスト」、反政府ノ闘争運動開始セラレ、「ブカレスト」、「クライヴオア」等ニ於テハ、縣廳、警視廳等ノ襲撃事件アリ、二十五日、「ラデスク」首相ハ右運動ニ對シ斷乎取締ノ方針ヲ明ニセルガ、二十六日、蘇紙「プラウダ」ハ右ニ關シ「ラデスク」ハ「ファッシスト」ノ壓迫ニ充分ノ努力ヲ爲サズトシ、斯テハ羅馬尼亞ニ取リ不利ナル事態ヲ招來スベシト論ジ、「ラデスク」ノ態度ヲ攻撃セリ。斯ル背景ノ下ニ、二月二十七日、蘇聯外務人民委員代理「グィンズスキー」ノ羅馬尼亞訪問傳ヘラレ、次イデ、二十八日、「ラデスク」内閣總辭職セリ。新内閣ノ成立ニ付テハ「ヌチルベイ」(貴族ニシテ羅馬尼亞ノ單獨媾和ニ關シ當時噂ニ上リタル人物ナリ)ニ組閣ノ命令アリタルモ失敗シ、改メテ「ラデスク」内閣ノ副首相「グロウザ」(共產黨)ニ組閣ノ命令アリタル趣ナリ。

(二)對日宣戰

羅馬尼亞ハ三月二日對日宣戰ヲ布告セル趣ナリ。

七、芬蘭

對獨宣戰

三月三日芬蘭政府ハ芬蘭・獨逸兩國ハ交戰狀態ニアル旨發表セリ。

八、瑞西

(一)極右及極左政黨結社禁止解除

聯邦政府ハ二月二十七日附閣令ヲ以テ、三月一日ヨリ極右並ニ極左政黨ニ對スル結社禁止ヲ解除ス